

2019年度室内環境学会第2回講演会 「IoT社会の室内環境センシング —生体センシングから スマホの活用まで—」の開催報告

2019年度事業委員会委員 齊藤 智

2020年2月21日（金）にフーハ大阪セミナールーム（ダイキン工業株式会社の展示スペース内）において、事業委員会の主催で講演会を開催しました。

最近、インターネット経由でセンサと通信機能を有した機器を繋げるIoT技術が急速に進み、室内環境のモニタリングにも応用されてきました。本技術により、医薬品製造施設や医療施設などの施設管理に関する検査時間の大幅短縮や精度向上ばかりでなく、一般住居における室内環境の簡易測定などの分野への展開も期待されています。本講演会では、話題となっている生体センシングにもふれ、本技術に関連した分析・評価法の概要、実施例および今後の課題などを、本分野の専門家と国内で関連機器を提供されている企業の方にご講演頂きました。

内容は昨年9月6日（金）にJASIS2019（旧分析展／科学機器展）で企画されたJASISコンファレンスのプログラムで開催した講演会とほぼ同等でしたが、大阪での開催ということで、参加者は関係者含めて30名程度で、会場がほぼ満席となりました。聴講者は公的研究機関の他、電機メーカー、医薬品・化学メーカー、自動車関連企業などからの方々に、大半は非会員であり、本学会の周知にも貢献しました。なお、基調講演は北陸先端科学技術大学院大学の水田 博教授の代理で、関根 嘉香先生（東海大学理学部化学科教授、本学会理事長）にご多忙の中、講演していただきました。誌面をお借りして、講演者、聴講者、ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。事業委員会では今後も講演会を企画する予定です。引き続き会員の皆様にご協力をお願いいたします。

講演会の予稿集は1部3,000円で販売しております。学会ホームページ（www.siej.org）、「学会誌・資料」タブ、「バックナンバー販売」の「学会主催 講演会・セミナー資料」から購入できますのでご利用ください。

プログラム

趣旨説明13:00～13:10

山口 一（大同大学、事業委員会委員長）

基調講演「グラフェンナノセンサによるpptレベル高感度ガスセンシング

技術の現状と今後の展望」13:10～14:00

関根 嘉香（東海大学理学部化学科、教授〈北陸先端科学技術大学院大学、水田 博教授の代行〉）

第一部

司会：齊藤 智（㈱竹中工務店）

一般講演1「MEMSデバイスによる環境センシングの可能性」14:00～14:30

三笥 佳代（オムロン㈱、事業開発本部、MEMS開発生産センタ、技術開発部、開発2課、主査）

一般講演2「センシングツールを活用した、働く人、働く場の見える化」14:30～15:00

上野 裕一（富士ゼロックス㈱、SWI事業本部 デジタルプラットフォームグループ、マネジャー）

休憩15:00～15:10

第二部

司会：山岸 弘（ライオン㈱）

一般講演3「バイタルモニタービーコンの実用化」15:10～15:40

宮本 修（ホシデン㈱、国内営業本部、東京営業部営業課 兼 MEDiTAGプロジェクト、課長）

- 一般講演 4 「横波型弾性表面波デバイスを用いた小形免疫センサ」15:40～16:10
 谷津田 博美（日本無線㈱，新規事業開発本部，新規事業開発技術部，バイオセンサグループ，専任部長）
- 一般講演 5 「タニタにおけるセンサ技術とヘルスケアへの展開について」16:10～16:40
 望月 計（㈱タニタ，生産技術本部，量産設計センター，技術 2 課，課長）
- 質疑応答（全体）16:40～16:55
 総括16:55～17:00
 山口 一（前出）



写真 1 関根教授による基調講演



写真 2 一般講演の会場風景

以上